

表26-1 応神の「年月日」解説結果

2009/10/08 by marishi

記載値			復元値		記事、年月日解説結果
西暦	年次	月日	年代	年次	
270	応神1年	1月1日	+111/381	応神1	応神1年1月1日→+111[270+111=381]
271	2	3月3日	+111/382	2	2+3+3=11→+111[271+111=382] 仲姫を皇后とする。 (382年、神功紀、新羅朝貢せず、討つ。)
272	3	10月3日 11月	+120/392 +111/383	3	辰斯王没、阿華王王位に就く(+120) 2+3+3=8、8と10→80、80+3=83→383
(273)	4		(+110/383)		記事なし
274	5	8月13日 10月	+110/384	4	8+10=80、1+3=4→384官船を造る。 8+10=80、13逆読み30→80+30=110 (384年、神功紀、百濟貴須王没)
275	6	2月	+110/385	5	近江国へ御幸。(385年、神功紀、百濟枕流王没)
276	7	9月	+110/386	6	6+2=8、7+9=16、8と16→86→386
277	8	3月	+120/397 +110/387	7	百濟人(直支=典支)来朝[百濟紀](9+3=12→+120) 上記の王子直支来朝以外の記事なし
278	9	4月	+110/388	8	武内宿禰諫言される
(279)	10		(+109/388)		記事なし
280	11	10月	+109/389	9	剣池、軽池を造る
(281)	12		(+108/389)		記事なし
282	13	3月 9月	+108/390	10	3月と9月と上記10月→390 髪長姫
283	14	2月	+108/391	11	2月→11年次、百濟王縫衣工女奉る。百濟弓月君来帰
284	15	8月6日	+108/392	12	8+6-上記2=12→12年次、百濟王阿直岐を遣わす
285	16		+120/405 +108/393	13	百濟、阿華王没。直支王位に就く(+120) 武内宿禰諫言される
(286)	17		(+107/393)		記事なし
(287)	18		(+106/393)		記事なし
288	19	10月1日	+106/394	14	吉野宮に行幸
289	20	9月	+120/409 +106/395	15	阿知使主来日→仁徳在位中(10+1+9=20→+120)
(290)	21		+106/396	16	記事なしの空白年。年次から除くと合わなくなる。
291	22	3月5日 3月14日 4月 9月6日 9月10日	+106/397 +106/397	17	日5+1+4=10、月3+3=6→+106、難波に行幸 3+14=17年次 月4+9+9=22(記載年次) 月10、日6→+106 9月10日下記
(292)	23		(+105)		記事なし
(293)	24		(+104)		記事なし
294	25		+120/414 +104/398	18	久爾辛王没(+120/414、百濟本紀+126/420)→仁徳 木満至国政を執る(年代不詳)
(295)	26		(+103)		記事なし
(296)	27		(+102)		上記9月10日→90、90+9=99→399
297	28	9月	+102/399	19	9月→末尾9→399、19年次、高麗の使者朝貢
(298)	29		(+101)		記事なし
(299)	30		(+100)		記事なし
300	31	8月	+100/400	20	上記9+8+下記2+1=20年次、官船朽ちる
(301)	32		(+99)		記事なし
(302)	33		(+98)		記事なし
(303)	34		(+97)		記事なし
(304)	35		(+96)		記事なし
(305)	36		(+95/400)		記事なし
306	37	2月1日	+120/426 +95/401	21	阿知使主を呉に遣わす(425年、呉へ朝貢)→仁徳 2月1日→21逆数12→120[306+120=426] 上記以外の記事なし。2月1日→21(復元年次)
(307)	38		(+94/401)		記事なし
308	39	2月	+120/428 +93/401	21	百濟比有王、妹新齊都媛を遣わす→履中 記載39年次→39逆数93を加算[308+93=401]
309	40	1月8日 1月24日	+93/402	22	記載40年次→40-18=22(復元年次) 24-1=23→在位23年、菟道稚郎子太子とする
310	41	2月15日	+93/403	23	41+25逆数52=+93、310+93=403、応神崩御 阿知使主帰る(+120/430→427)←仁徳崩御427年

注1) 応神37年次以降には、1年のずれが見られる。21年次が余分であり、在位は23年でよい。